

## 図書館職員試験受験体験記

2013年度卒 大学院 文学研究科 臨床人間学専攻 博士前期課程

H . T

はじめに

私は今年度（2013年）の司書職採用試験を受験し、都道府県立の図書館に採用されることになりました。ここでは、自身が受験した都道府県の採用試験について、その概要や試験を受けていて感じたことなどについて書いていこうと思います。また、国立大学法人の図書館卒も受験しましたので、そちらについても合わせて書かせていただきます。

試験の概要

私の受験した都道府県立図書館は、9月末～10月末の期間で採用試験を実施しました。具体的な内容としては、9月末に一次として択一式で教養・専門試験の両方を行い、10月中旬ごろに二次として論述の専門試験と適性試験、10月末に個人面接という形でした。

国立大学法人は、今年度は5月末に一次の教養試験、6月中旬ごろに各大学図書館の説明会、6月末に専門試験、7月初週に各大学図書館の面接という流れでした。なかなか複雑な流れですので、国立大学法人を受験しようと考えている方は、ホームページ等でしっかりと試験の流れを把握しておく必要があると思います。

教養試験について

どの採用試験においても、一次試験として教養試験を実施しています。そのため、まずこれを突破することが司書への道を切り開くことになるので、とても重要な試験といえます。

教養試験に含まれる科目数は非常に多く、勉強もすごく苦勞するかと思います。その出題範囲が広すぎてどこから手を付けていいかわからない、などということもよく耳にします。

個人的な考えとしては、やはり数的処理の対

策はしっかり練っておくべきかと思います。出題数も多く、制限時間のある試験内において、数的処理の問題をどれだけ時間をかけずに解けるかは、合否を左右するとても重要な部分となってきます。

勉強法としては、参考書などを用いて普段から解くようにし、まず問題に慣れておくことが大切だと思います。そして、試験が近づいてきたら解く速さを意識するといった形がいいかと思っています。また、数的処理は「解を出す」という種類の勉強の為、暗記系と比べて取っ付き易い科目だと思いますので、「何をどう勉強したらいいかわからない」といった時は、まずここから手を付けていけばいいのではないのでしょうか。

その他の科目については、確かに範囲は広いですがそこまで難易度は高くありません。ですから、範囲の広さに諦めるよりも、どの科目も少しでも目に触れておくようにしておくことが大切だと思います。

専門試験について

専門試験については、受験先によって形式が変わります。私の受験した都道府県の採用試験では、一次に択一式、二次に論述式の試験がありました。また、国立大学法人では二次に一問一答や正誤問題等を含む記述式の試験が行われました。しっかりと日程や出題形式を把握することが大切です。

まず、私の受けた都道府県の試験ですが、一次の択一式は出題範囲が広く、万遍なく勉強しておく必要があると感じました。目録規則や分類など大学の授業で学んだことをしっかりと復習しておくことが、もっともよい対策法だと思います。

二次の論述試験は、1時間で700～900字程

度という分量です。字数としてはそこまで多くはないですが、論述が苦手だと感じている方は、一次試験終了以降からでも文章を書く練習をしておくといいかと思います。

また、内容については図書館の抱える課題について、自身の考えを書くようなものです。この対策として、普段から図書館について考え、自分の意見を明確にしておくことが大切だと思います。自身の図書館像などをしっかりと持っておくと、課題に対する意見もすんなりと浮かんできます。また、出題される問題は、その受験先の図書館とも関わる内容であることが多いので、事前にその館種の図書館がどのような課題を抱えているかを学んでおくことも大切です。

国立大学法人については、ホームページで過去問が閲覧できるようになっていますので、それを解いておくことで例年出題されている箇所を把握できますし、試験の雰囲気や掴めると思います。

#### 面接試験について

今回私が受験した図書館は、いずれも個別面接のみでした。都道府県立の図書館では、場所と試験員の異なる二度の個別面接を受けました。また、国立大学法人の面接は、私が今回受けた図書館ではいずれも一度の個別面接のみでした。ただし、国立大学法人に関しては、面接は完全に各大学図書館ごとに実施されるので、募集館によってはその他の面接方式を取る場合もあると思われます。

内容については、どの図書館でも共通して聞かれる質問がありました。それは、「あなたの目指す図書館員像は？」や「あなたはどんな図書館にしていきたいか？」といった質問で、自身の図書館像・図書館員像を問われるものでした。

ですから、自身の図書館像・図書館員像を明確にしておくことが、面接において重要であると感じました。また、この質問にしっかり答えることで、自身の図書館に対する熱意も伝えることができると思うので、しっかりと答えられるようにしておくといいと思います。

また、今回受けた中では、クレーム対応に関する質問もよく聞かれたので、それについても自身の考えを明確にしておくといいかもしれません。

#### おわりに

私の今年度受験した図書館職員採用試験の概要や各試験の内容については、以上になります。最後に全体を通して、繰り返しになりますが、自身の図書館像・図書館員像をしっかりと持って試験に臨むことが重要だと感じました。論述や面接等の自分の考えを示す場面において、事前に想定していないような質問があっても、その図書館像を柱に据えて考えることで対応することができましたし、意見に一貫性を生み出すことが出来たと思います。

この文章を読んでくださった方の多くは、図書館職員を目指している方かと思います。そして、図書館職員を目指すからには、何かしら図書館に対する考えを抱いているのではないかと思います。ですから、その考えを明確にすること、自身の図書館像をつくり出すことを勉強のスタートに据えるといいのではないのでしょうか。図書館について考えていくと、自然と図書館学の知識、さらに法律などの知識にも目が向きます。そうやって専門試験や教養試験の勉強に取りかかっていく方が、とりあえずで始めるよりもいい効果を生むように思います。あくまで一つの意見ですが、参考に見て下さい。

## 合格体験記

2013年度卒 情報コミュニケーション学部

S・H

はじめに

私は2013年度、A県の司書の試験に合格することができました。ここでは、合格が決まるまで約半年間の流れと、受験を通して感じたことを書きたいと思います。

司書を目指そうと決めるまで（～4年生5月）

私が公務員試験を受験しようと思ったのは、4年生の5月半ばでした。それまでは、公務員試験の受験は少しも考えておらず、民間の会社を受けていました。司書の仕事には中学生頃から憧れを感じていましたが、少ない採用と難しい試験を突破できる自信はなく、自分には無理だなと感じていました。しかし、なりたと思う職業も特になく、就職活動は困難を極めていました。

こんな私が進路変更を決心したのは、アルバイト先でお世話になっていた司書の方に、就職について相談に乗ってもらったことがきっかけでした。色々なお話を聞く中で気持ちが変わり、公務員試験の受験を決め、さらに自分のかねてからの憧れであった司書を目指したいと考えるようになりました。

採用試験を受験しよう決めてから（5月～）

民間への就職活動はやめ、予備校に通学し始めました。勉強を始めたのが4年生の5月というかなり遅い時期だったため、在学中の合格は考えませんでした。卒業したら、アルバイトをしながら勉強を続けるつもりでいました。

公務員の数ある職種の中で、第一志望は司書でした。しかし、採用は少ないため、他の職種の受験も考えていました。そのため、予備校では地方上級対策のコースを選び、県庁などの一般行政の試験も受けられるように勉強していま

した。

実際に採用試験を受験した（6～11月）

勉強は始めたばかりでしたが、募集している自治体で気になるところがあれば願書を送っていました。私が受験したのは、①県の上級試験（一般行政）、②市の上級試験（司書）、③都のⅡ類（司書）、④県の中級試験（司書）の4つです。この時期は毎月なんらかの試験を受けていました。

①県（関東）の上級試験（6月）

県の上級試験では、教養試験と一般行政の専門試験の2つがありました。専門試験は1問も分からず、不合格でした。しかしこの試験を受けて、試験の雰囲気や勉強すべきことが分かったので、受験した意味はあったかなと思います。

②市（関東）の上級試験（7～10月）

司書枠で採用をしている自治体の試験はこの市役所が初めてでした。一次では教養試験と作文、二次では集団討論、三次（最終）では個人面接が3回ありました。三次試験で不合格になりました。

③都のⅡ類試験（8月）

司書枠で採用がある試験です。一次試験では、教養試験と司書の専門試験がありましたが、一次で不合格となりました。

④県（地元）の中級試験（9～11月）

司書枠で採用がある試験です。私はここに最終合格することができました。一次では、教養試験と司書の専門試験、二次（最終）では、適性検査、論文、集団討論、2回の個人面接があ

りました。12月に合格の発表があり、受験を終えました。

以上が私の合格までの半年間になります。

## 受験について

1年を通じて、全国で多くの試験がありますが、駄目元でも受けてみることを強くおすすめします。私が受けた試験は全て駄目元でした。試験の雰囲気が分かれば緊張も減りますし、手ごたえがなくても通過できることもあります。

民間との併願は、私はしませんでした。「面接慣れするために就活しておくのがいい」という話を聞くことがありますが、特に行きたい会社が無ければ併願は考えなくていいと思います。

予備校は、行ってよかったなと思います。私は数的処理が大の苦手だったので、予備校の授業がありがたかったです。受験はしたいけれど何から勉強していいのか分からないという人は、予備校の体験授業などに行ってみるといいと思います。詳しく教えてください。

また、司書は採用が少ないので、全国各地への受験の旅は避けて通れないと思います。交通費がかさみます。なので、絶対司書を目指すという人には、早いうちからの貯金をおすすめします。

## 面接について

私は面接が大嫌いでした。会社の面接は全て一次で落ちました。そんな人でも練習すれば、ちゃんと意思疎通できるようになりますから大丈夫です。

おすすめなのが、日記を書くことです。面接のために書いていたわけではないのですが、面接で話す話題を考えたりまとめたりするときに日記は役に立ちました。日記を読み返すと、長所や短所、頑張ったことなど、面接でよく聞かれる質問に対して自分なりの答えが発見できたので、面接で苦戦しそうな予感がする人にはおすすめです。

面接シートの添削や面接練習は、大学のキャリア事務室、予備校の先生、両親、飯田橋にあるしごとセンターなどにみてもらいました。最初は面接練習するのも緊張したのですが、思っていることを実際に口に出す練習を沢山してよかったと思います。

図書館の話題はどこでも質問されると思うので、頑張って色々考えておくといいなと感じました。図書館や出版関係のニュース、理想の図書館像、図書館での思い出、好きな本などといった図書館関係のテーマは、志望動機と一緒に考えておく、面接だけでなく論文対策にも役に立つと思います。

私は、「面接は慣れ」と色々な人に言われましたが、本当にその通りだと今になって思います。色々な事を考えて、喋る練習をすれば、なんとか会話をすることができるようになるものです。

## おわりに

私は初め、司書を目指すことを何もしないうちから諦めていました。しかしタイミングと偶然が重なったおかげで、受験を決心し合格することができました。勉強はしんどいですし、いつ合格できるかも分からない試験ですが、こういうこともあるので、ちょっとでも迷ったら進路の一つとして考えてみてもいいと思います。

また、勉強の他にも、色々な人と話すことは欠かせないなと思いました。私は、司書や公務員を目指す友達と話をしたり、図書室でのアルバイトやボランティアを経験したり、そこで司書の方に相談に乗ってもらったり、先生や親にアドバイスをもらったり…という色々な経験のおかげで、「司書になりたい」という気持ちが強くなっていきました。受験勉強は忙しくて大変ですが、このような機会も沢山持つといいと思います。

以上、私の受験体験記でした。

## 図書館職員試験受験体験記

2013年度卒 文学部 文学科

B . S

はじめに

私は今年度（2013年）の司書職採用試験を受験し、地方公務員の司書職として採用されることとなりました。今回は、私が受験した採用試験のいくつかの形式について、試験の概要と受験中に感じたことなどをまとめたいと思います。拙い文章で恐縮ですが、皆様が受験する際の参考になれば幸いです。

### 試験内容

全体の試験の流れとしては、公務員試験と同様に一次試験で筆記・小論文、二次試験以降は集団討論や面接を重ねるとするのが一般的だと思います。筆記試験では教養試験と合わせ、専門試験として図書館情報学を出題される場合が多いですが、団体によっては専門試験を設けないところや性格検査を行うところがあるなど細かな試験形式には違いがあるので、受験の際には案内をよく確認し、その時に合った準備と心構えをしていくことが大切です。

### 筆記試験：教養試験

ここでは公務員試験の教養試験を基準にお話させていただきますが、出題科目がとても多く、対策が大変です。私は実務教育出版の公務員合格講座のテキストや問題集を利用しましたが、時間に余裕のある方は予備校や明治大学の公務員講座に通うのも効率的かもしれません。

特に数的処理は出題数が多く得点源になるので、積極的に取り組んでおくべきだと思います。一日一問、クイズを解くような感覚で数をこなすというのも一つの方法です。あまりに膨大な範囲に途方に暮れてしまいがちですが、自分の中の知識を一つずつ増やしていくつもりで楽し

んで勉強することをお勧めします。

### 筆記試験：専門試験

司書職採用試験の専門試験では、図書館情報学が出題されることがほとんどです。これに関しては、大学での司書課程の授業が最高の勉強方法だというほかありません。日々真剣に授業に取り組み、ノートやレジュメ、テキストなどは大切に保管し復習に役立ててください。図書館情報学を扱った問題集はあまり多くはありませんが、『図書館情報学検定試験問題集』、『図書館職員採用試験問題集・解説』などが日本図書館協会から出版されています。

強力な味方となってくれるのが司書・司書教諭課程室です。教科書だけでなく、各地の司書職採用試験の過去問や図書館業界に関係する書籍・雑誌が揃えられているので、一度足を運んで情報を求めてみてください。また、私はあまり参加できませんでしたが、課程室では月に一度、明大OBの図書館職員の方をお招きして採用試験のための勉強会が開かれています。現場の方のお話が聴ける貴重な場でもあるので、意欲のある方は参加してみるとよいと思います。

### 小論文・作文試験

限られた時間内にその場で出されたテーマで長文をまとめるのは、かなり骨の折れる作業です。作文試験で求められるのは、きちんとした文体で筋の通った文章が書ける力だと感じます。普段から自分の意見をすっきりとまとめて文章にする練習をしておき、友人や家族に読んで意見を述べてもらう機会を設けるなどすることで対策ができると思います。

## 集団討論

私は討論形式の試験の対策をしていなかったもので、全くの手探りの状態でした。事前にテーマを通達され調査の時間を与えてもらえる場合もあれば、その場で初めてテーマが発表されることもあったので、不測の事態に備える精神力も必要だと感じました。気を付けていたのですが、ディベートではなくディスカッションなので、あまり否定的な言葉は使わずに相手の意見の良いところを見つけて発言するよう心がけました。面接官は意見の善し悪しももちろんですが、話し合いの際にどのように人と向き合っているかという姿勢も判断基準に入れているのではないかと感じました。誰かと対面する形式の試験はお互いに緊張してしまいがちなので、話し方や態度で発言しやすい和やかな雰囲気を作るよう努めるとよいかと思います。

## 面接試験

何故その図書館への就職を希望するのか、その図書館でどのようなサービスを展開したいかというような質問は、面接試験で必ずと言っていいほど聞かれます。試験に臨む際には、事前に受験する自治体や機関の図書館に実際に足を運び、サービスや雰囲気を確かめておくことが

必要です。

どうして司書という仕事に就こうと思ったのか、など図書館業界についての想いなども尋ねられると思いますので、自分の考えや情熱を言葉で余すところなく伝えられるように準備しておきましょう。

## おわりに

大雑把にはありますが、今年私が経験した試験の形式と思うところについて述べさせていただきました。私が受験を終えて思ったことは、全体的に勉強不足だったということです。できるだけ早いうちから準備を始めることに損はありません。ほんの少しずつでも、日々の努力を積み重ねることで採用への道のりは確実に近づいていくと思います。

司書職の採用窓口が狭き門なのは確かです。一つの図書館が一度に採用する人数は極めて少ないので、できるだけたくさんの図書館を受験する覚悟を決めることが必要だと思います。思うようにいかななくてもあまりがっかりしないで、いつも前向きに次のチャンスのための準備をするように心がけてください。

図書館司書を目指す皆さんが夢をかなえられるよう応援しています。